

【ディスプレイ】

(第三種郵便物認可)

映像新聞

平成27年1月12日(月曜日) (14)

ビジュアルメディアExpo開催 最新の映像表現技術を公開

最新の映像表現技術を紹介する「ビジュアルメディアExpo2014」が、2014年12月3～5日に横浜市西区のバシフィコ横浜で開催。同時間開催の「国際画像機器展2014」を含め、3日間で1万5000人余りの来場者があった。最先端表現技術利用推進協会(略称「表技協」)では、展示会場内に多くの拠点を設け、プロジェクト・マッピング(PM)技術をはじめとした最先端表現技術をアピールした。

表技協 マッピング実例など展示

表技協は、最先端の「表現技術」を横断的に扱う目的で、13年秋に設立された一般財団法人。協会の代表者は「表現技術が最先端の技術を使いこなすための支援」と説明する。町田氏は「表現技術と、メッセージを伝えるために使われる技術や自己表現のために使われる技術」を指す。表技協は、これらの情報環境において、



表技協ブースで展示された円融寺の3Dミニチュアモデル

「表現技術」を横断的に扱う目的で、13年秋に設立された一般財団法人。協会の代表者は「表現技術が最先端の技術を使いこなすための支援」と説明する。町田氏は「表現技術と、メッセージを伝えるために使われる技術や自己表現のために使われる技術」を指す。表技協は、これらの情報環境において、

裸眼3D、高精細関連製品も

「ビジュアルメディアExpo2014」では、多彩な新技術・新製品が公開された。

●裸眼3D

文科大学は裸眼3D(立体視)コンテンツを展示した。

文科大学情報メディア表現学科教授の高田哲雄氏は「長年、デジタルコンテンツおよび3DCGを研究している。今回はホディバランスインストラクターの唐澤映子氏のアドバイスを受けて、縦型の3Dコンテンツを制作した。縦型ディスプレイ

1であれば、90度程度の大きさで等身大の映像が表現可能。将来裸眼3Dが普及したときにキラキラとしたときにキラキラとしたコンテンツとなる可能性もある」と説明し、同社映像システムフルプロコンサルタントの清



高田教授と裸眼3Dコンテンツ



西華デジタルイメージのブース



計測技術研究所の4Kソリューション



テクノロジー・ジョイントが出展したマッピング用メディアサーバー

同社事業開発部3課の刈谷剛敏氏は「当社の新製品として、マッピング用のメディアサーバーを展示した。マッピング市場は年々拡大しており、メディアサーバーの需要も増している。より使いやすいメディアサーバーとして市場に訴求する」と話した。

西華デジタルイメージは、米レッド・デジタル社製の高精細カメラを展示した。

同社映像システムフルプロコンサルタントの清

ONをリリースし、放

計測技術研究所は、4

K関連製品

テクノロジー・ジョイ

本孝氏は「当社は2012年に西華産業の100%子会社として、主に放送用デジタルカメラやその周辺機器の販売会社として誕生した。高精度4Kカメラとして、商品ラインアップを拡大していく」と話

送映関係をはじめとし、数多くのユーザーに利用されている」と話す。4Kなど高精細時代に

K関連製品を主力に出展した。同社のビジュアルウェア事業部営業部リーダーの田端宏志氏は「11月のIntertek BEBEEでは近未来の8Kソリューションを中心に訴求したが、この展示会では実用的な4Kのソリューションを中心に展示した。

放送関係者というよりもクリエイターなどの来場者が多いこの展示会では、すぐに使える4Kをアピールした」と説明した。

メディアサーバーテクノロジー・ジョイ

表技協事務局を務めるフォーラムエイトの太田夏花氏は「新しい最先端技術を駆使してのコンテンツ制作には、各分野の総合力が必要。そこで、関連分野の枠を超えて英知を集結することで、これまでになく新しい表現方法を構築し、一般に普及啓蒙し、人材の育成を図りたい。多様な分野の連携で新産業も創造されると思う。各業界の垣根を越えた組織体は、表技協が国内初だろう」と期待を込めた。